今週のみことば

「信仰の戦いを戦い、永遠のいのちを獲得しなさい」

（アモス書８章４節～７節）

「あなたがたは言っている。『新月の祭りはいつ終わるのか。私たちは穀物を売りたいのだが。安息日はいつ終わるのか。麦を売りに出したいのだが。エパを小さくし、シェケルを重くし、欺きの秤で欺こう。』」（8：5）

（テモテへの手紙第一６章１節～１２節）

「信仰の戦いを立派に戦い、永遠のいのちを獲得しなさい。あなたはこのために召され、多くの証人たちの前ですばらしい告白をしました。」（6：12）

今日のメッセージ要旨

◎私たちは目先のことに囚われて肝心要の事柄を見失ってしまいやすいのです。旧約時代の姿を見ても、パウロの時代をみても、今の私たちにも同じような誘惑と戦いがあるのです。そのことを心に銘記して、信仰の戦いを戦わせて戴こう。

◎アモス書の内容は、①諸国に対する審判（１章～２章）、②イスラエルに対する審き（３章～６章）、③イスラエルに対する計画（７章～９章）に分けられる。

神様が災いを下されるのは、民が悔い改めて神様に立ち返るためである。同様にアモスが神のさばきを宣言するのは、民が神様を求めるようになるためです。

８章の「夏の果物」(1-3) の描写（７章、神がいなごを送る、燃える火を呼ぶ、神が量りなわを持って城壁に立つ、９章、祭壇のかたわらに立つ主)は、北イスラエルの滅亡を象徴している。神様はご自身の民を見捨てることはなさらない。やがて終わりの日に豊かな繁栄を与え、イスラエルの栄光を回復されるのです。

弱者への虐待と主の祭りの軽視とは関連しているのです、「新月の祭り」は月初めの安息日、「安息日」は週の７日目、ともに仕事を休んで主を礼拝する日です。しかし、人々は早く礼拝の儀式を済ませて仕事や商売をしたかった。主の許にいると内面の破れが見えてくるので、人は逃げ出したくなるものです(イザヤ30:15-16)。しかし、破れに向き合うことなしに癒しも回復もないのです。

「主のみ言葉を聞く危機」の時代にいつも主を求めて近づきたいものです。

◎テモテへの手紙第一６章は四つに分解されます。①５章１～６章２節、特に注意すべき人々に関する指示、②３～10節、満ち足りる心を伴う敬虔、③11～16節、主の前で信仰の戦いを勇敢に戦うべきこと、④17～21節、富のある人々に関するテモテへの指示と終わりの祈り、です。今日は①～③の一部分からです。

パウロはテモテを「信仰による真実のわが子」と呼び(1:2)、同労者として扱い(使徒16:1～3)、エペソに派遣したのです(1:3)。特にエペソの教会の中に「違った教え」(1:3)を説く者が起こり、背教者も出た(1:19,20)ので、パウロは年若く経験の浅いテモテを励まし、牧会に関する数々の注意を与えるためにこの手紙を書いたのです。

◎パウロは特に「敬虔」について勧めております。イエス・キリストは「不敬虔な者」のために死んで下さったのです(ローマ5:6)。その恵みに与った者にパウロは「神を敬うことを修行すべし」（１テモテ4:7)と勧めたのです。「今のいのちと未来のいのちが約束されている敬虔は、すべてに有益」だからです（同8)。ですから「正しさ、敬虔、信仰、愛、忍耐、柔和を熱心に求めなさい」と勧めたのです(6:11)。

◎更にパウロは「金銭」と「富」について警告しております。金銭や富そのものに罪があるのではなく、私たちの内にある欲望にそそのかされるところに問題があるのです。「金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。」(9～10)。「この世で富んでいる人たちに命じなさい。高ぶらないように。また、たよりにならない富に望みを置かないように。むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くように。」(17)。「また、人の益を計り、良い行ないに富み、惜しまずに施し、喜んで分け与えるように。」(18)と勧められております。人間は「神と富とにかね仕える」ことは出来ないのです（マタイ6:24)。いつも信仰の戦いを主によって戦いましょう。